

[分類]	普及技術
[成果名]	ねぎのアザミウマ類防除にディアナ SC が有効である
[要約]	ねぎのアザミウマ類防除にディアナ SC の 5,000 倍液を散布する。
[担当]	野菜花き試験場環境部、農業技術課
[部会]	病虫部会

1 背景・ねらい

ねぎにおけるアザミウマ類の被害は、主要な産地で増加傾向にあり、本害虫の防除の重要性が増している。そこで、ねぎのアザミウマ類に対する防除試験を実施したところ、ディアナ SC の実用性が明らかになったため、普及技術として公表する。

2 成果の内容・特徴

(1) ねぎのアザミウマ類防除に、ディアナ SC の 5,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

ディアナ SC

[一般名および成分含有量] スピネトラム 11.7% (IRAC コード^注): 5)

[毒性] 人畜毒性: 毒物、劇物には該当しない。 [魚毒性] この登録に係る使用方法では該当がない。

[対象作物に対する適用登録状況 (平成 28 年 2 月 15 日現在 JPP-NET 確認)]

作物名	適用害虫名	希釈 倍数	使用 方法	使用 時期	本剤の使 用回数	散布液量	スピネトラムを含む 農薬の総使用回数
ねぎ	アザミウマ類 ネギハモグリ バエ ネギコガ シロイチモジ ヨトウ	2,500 ～ 5,000 倍	散布	収穫 前日 まで	2 回以内	100～300 リットル /10a	4 回以内 (但し、定植 前は 1 回以内、本圃で は 3 回以内)

注) IRAC コードとは IRAC (殺虫剤抵抗性対策委員会) が定める殺虫剤の作用機構による分類で、同じコードは同一系統を表す。詳細は農薬工業会のホームページ (<http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>) を参照する。

3 利用上の留意点

- (1) 本剤はスピノシン系薬剤で、害虫の神経系に作用することにより速やかに食害抑制効果を示す。
- (2) 蚕に対して影響があるため、桑葉にかからないよう注意する。
- (3) ミツバチに対して影響があるため、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにする。
- (4) 薬剤抵抗性発達を回避するため、作用性の異なる薬剤をローテーション使用する。

4 対象範囲 県下のねぎ栽培地域 約 680ha

5 具体的データ

(1) 平成 24 年に伊那市現地ほ場においてアザミウマ類に対する防除効果試験を実施した。発生種はネギアザミウマで、ディアナ SC の 5,000 倍液散布は、無処理区に比較して防除効果が認められた。被害度については、葉の食害の累積になるため明確ではないが、被害の増加は抑えられていることから防除効果は認められた。薬害は認められなかった (表 1)。

表1 ねぎのネギアザミウマに対するディアナSCの防除効果－1（平成24年、野菜花き試験場、上伊那農業改良普及センター）

【虫数調査結果】

供試薬剤	希釈 倍数	120葉当 たり虫数 補正密度 指数	散布直前(8月3日)			散布4日後(8月7日)			散布7日後(8月10日)			散布14日後(8月17日)			葉害
			幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	
ディアナSC	5,000		123	16	139	1	1	2	6	2	8	64	21	85	なし
								1.3			1.7			15.4	
無処理	—		116	15	131	95	55	150	292	141	433	407	112	519	
								100			100			100	

【被害度調査結果】

供試薬剤	希釈 倍数	調査 株数	散布直前(8月3日)					散布4日後(8月7日)					散布7日後(8月10日)					散布14日後(8月17日)				
			程度別被害株数				被害度	程度別被害株数				被害度	程度別被害株数				被害度	程度別被害株数				被害度
			A	B	C	D		A	B	C	D	被害度	A	B	C	D	被害度	A	B	C	D	被害度
ディアナSC	5,000	60	0	21	39	0	45.0	0	14	46	0	41.1	0	10	50	0	38.9	0	11	49	0	39.4
無処理	—	60	0	17	43	0	42.8	0	37	23	0	53.9	0	40	20	0	55.6	0	58	2	0	65.6

耕種概要：伊那市現地ほ場、露地栽培。品種：「夏扇パワー」、定植：平成24年5月8日、栽植距離：畝幅110cm×株間2～3cm。施肥・一般管理は慣行。区制・面積：1区24.8㎡、3反復。発生状況：多発生。

処理方法：8月3日に所定濃度の薬液を背負い式動力噴霧器で散布（展着剤グラミンS、10,000倍加用）。

調査方法：散布直前および4、7、14日後に各区20株の中心2葉について幼虫・成虫別の寄生個体数を調査した。合わせて程度別被害株数を調査した。また葉害の有無を肉眼観察した。

補正密度指数＝（処理区散布後密度×無処理区散布前密度）／（処理区散布前密度×無処理区散布後密度）×100

被害度＝（（3A＋2B＋C）／調査株数×3）×100

【被害の程度別基準】 A：食痕が大変目立つ（葉の半分以上に見られる） B：食痕が目立つ（葉の半分未満）

C：食痕が確認される（よく見て確認できる） D：食痕なし

（2）平成26年に東筑摩郡山形村現地圃場においてネギアザミウマに対する防除効果試験を実施した。ディアナSCの5,000倍液散布は、無処理区に比較して高い防除効果が認められた。被害度についても、新たに展葉してくる葉に被害が少なく、防除効果は認められた。葉害は認められなかった（表2）。

表2 ねぎのネギアザミウマに対するディアナSCの防除効果－2（平成26年、野菜花き試験場、松本農業改良普及センター）

【虫数調査結果】

供試薬剤	希釈 倍数	120葉当 たり虫数	散布直前（7月21日）			散布3日後（7月24日）			散布7日後（7月28日）			薬害
			幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	
ディアナSC	5,000		0	15	15	2	2	4	4	4	8	なし
		補正密度指数						2.3			4.1	
無処理	－	120葉当 たり虫数	0	13	13	71	78	149	100	70	170	
		補正密度指数						100			100	

【被害度調査結果】

供試薬剤	希釈 倍数	調査 株数	散布直前（7月21日）				被害度	散布3日後（7月24日）				被害度	散布7日後（7月28日）				被害度
			程度別被害株数					程度別被害株数					程度別被害株数				
			A	B	C	D		A	B	C	D		A	B	C	D	
ディアナSC	5,000	60	0	0	45	15	25.0	0	0	28	32	15.6	0	0	16	44	8.9
無処理	－	60	0	0	42	18	23.3	0	0	41	19	22.8	0	0	41	19	22.8

耕種概要：東筑摩郡山形村現地ほ場、露地栽培。品種：「夏扇パワー」、定植：平成26年5月19日、栽植距離：畝幅100cm×株間2～3cm。施肥・一般管理は慣行。区制・面積：1区25～10㎡、反復なし。発生状況：少発生。

処理方法：7月21日に所定濃度の薬液を背負い式動力噴霧器で散布（展着剤まくびか、10,000倍加用）。

調査方法：散布直前および3、7日後に各区3カ所の20株の中心2葉について幼虫・成虫別の寄生個体数を調査した。合わせて程度別被害株数を調査した。また薬害の有無を肉眼観察した。その他は表1に同じ。

特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

野菜・花きの病害虫に関する素材開発研究、平成24年、26年度（2012、2014年度）、県単素材開発